

一般社団法人日本家族心理学会研修委員会

研修委員長：野末武義

研修委員：大熊保彦

北島歩美

平山史朗

2022年度第6回研修会 「家族合同面接」2023年3月19日実施

受講者アンケート結果のご報告

2022年度第6回研修会は、久しぶりの対面での開催となりました。20名限定での開催でしたが、予約開始よりほどなくして定員に達しました。受講者の皆さんの了解を得て、アンケート結果を掲載させていただきます。

2023年度以降も、年間6回の研修会を開催し、今回の様な実践的な内容も盛り込んでいく予定です。

<家族合同面接についての感想>

- 面接が個人か複数かでこれほど留意すること、手法が違うのかということが分かりました。
- IPの声を如何に拾っていくかということと、一次感情にどう触れていくかということを学ぶことができた。
- 介入の積極性、リフレーミングの方法など、改めて勉強になりました。
- これまで合同面接の場で家族メンバーに共感しているつもりでも、そこから先に行き詰まりを感じていましたが、今回の研修会で共感することの重要性を改めて実感し、これまでは心のどこかで「上手いことを言って気付かせてやろう」という気持ちがあったのではないかと反省しました。今後はクライアントのことを理解した上で共感し、この気持ち（枠組み）を共有できないかな？と面接者が心から思えることが大事だと思いました。
- 肩入れ、リフレームの大切さ、そしてトレーニングと経験を重ねていく必要性を強く感じました。
- 言語化を手伝い、積極的に聴くことの大切さを学ぶことができました。
- ジョイニング、肩入れ、リフレーミングがそれぞれ独立してあるのではなく、面接の中で流れるように存在しているということが大きな発見、気づきでした。
- 肩入れと忠誠心という2つの概念について体感的に学ぶことができ、今後はきちんと見立てのための知識を持って臨みたいと思いました。

<ロールプレイに関する感想>

- 自分の面接の癖を少し見つけることができたと思うので、それを自覚しながら面接を進めることを意識できればと思います。
- 参加者のどの役割をしても感じ、考えることがあり、実感を持って学べて、しっかり自分の中に残るものがあると改めて思いました。自分の職場のケースを思い描いてIPを演じることで、その子の思いを多角的に感じました。Thにしてほしいことが見えた気がしました。
- 複数の相手にどう肩入れするかがとても難しかった。言葉の使い方次第で、その家族のうまくいかないパターンを繰り返すことにもなり、実践で使うまでに訓練が必要だということがわかりました。
- 緊張しますが、ロールプレイが含まれている研修は学びもとても大きいと感じました。
- 実際にロールプレイをしてみると、どういうコミュニケーションパターンが行われているのか、どう介入していくのが本当に難しく、見えていない自分に気が付くことができました。
- 役になりきり、実際にそこにいる家族メンバーの中で動く生の気持ち、パターンをありありと感じられました。言ってもらえて（共感してもらえて）嬉しい、報われたと感じました。Thではどう肩入れしていくのか、家族のパターンが見えてきたとしてどう家族メンバーに伝えていくのが難しかったです。
- クライアントの立場を少し体験することができたことが面白かったです。繰り返されるパターンが面接場面で生じた際に、どのように感じられるか体験出来て有意義でした。
- 役割を取ることでその人の気持ちがよくわかると感じた。
- セラピスト役、母役を通して、それぞれの気持ちを味わえてよかった。クライアント役も全ての立ち位置をもっとやってみたかった。肩入れ、リフレームがうまくされると、とても心に響くことがよくわかった。

<今回の研修会は日々の臨床実践にはどのように役立ちそうか>

- 合同面接をする機会は限られているものの、多職種連携やコンサルテーション等、ジョイニングや多方向の肩入れ等のスキルを活用していけるといった。
- 傾聴に偏りがちな自分が、セラピーの中で積極的に動くイメージが持ちやすくなると感じました。
- 実際の職務の中での合同面接で、家族それぞれのメッセージを読み取ることを意識しながら今後活かしていけるといった。
- 両親で面接にいらっしゃる方が増えており、どう見立てるのか、ジョイニングしていくのか、とても勉強になりました。
- SC先での父母面接、母子面接、母のみで来ているときも背後にいる家族を想定して聞く、学校というシステムへのジョイニング、アセスメントとして活用できると感じました。